

令和 7 年度 学校評価報告書

【重点目標】

1. 主体的に学べる教育活動の円滑な実施
2. 社会に貢献しうる有能な人材の育成
3. 学生確保対策強化の継続
4. 教職員の視野を広げ、自ら行動し新たな課題に挑戦する組織運営を目指す

神奈川県は医療への需要がさらに高まる中、県立看護専門学校の役割として入学性確保は喫緊の課題である。昨年度の評価から、広報活動を教職員一丸となって取り組んだ。その結果、受験生が増加し、県内で活躍できる看護師を養成するための選考につながった。今後も入学性確保への取り組みは困難なことが予想される。質の高い看護師の輩出に向けた教育活動を行い、教員一人ひとりが看護の魅力や学校の強みを伝えられるように広報活動を継続していく。

		今年度の取り組み（実績）	評価（成果・課題）
1	教育活動	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価 3.7（前年度 3.6）[回収率 60%（前年度 71%）] ・Google-workspace の活用：授業資料の配信、リフレクション・授業評価アンケートの回収、レポート提出 ・よこ看ポータル作成：学生便覧・シラバス・実習要項・時間割の閲覧、欠席連絡 ・生成 AI 活用ガイドラインの作成 <p><臨地実習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価：3.8（前年度 3.8）[回収率 69.6%（前年度 84%）] ・実習記録のデジタル導入を推進 ・次年度臨地実習において実習配置に複数教員を配置するよう調整 <p><ユニフィケーション活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニフィケーション教員活動内容 ・統合分野（院内での看護管理、医療安全、感染管理）の教材化および実習後方支援 ・共同授業：3 回/年 ・施設からの授業参加：1 回 ・令和 8 年度からの新規施設導入に向けた調整 <p><新カリキュラム評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、各科目のねらい、実習での強化項目に沿って評価を実施 	<p><主体的に学ぶ学生を育てるための教育活動></p> <p>講義や臨地実習で ICT 化をすすめ、学習環境の整備は進んでいる。しかし学力の個人差があり、主体的に学ぶ姿勢を育むために学校生活における支援や臨地実習で教員間の連携を強化していくことが今後の課題である。</p> <p>① 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google-workspace やよこ看ポータルを活用し、ICT 化を進め、学習環境を整えた。グループワークの際にモニターを活用し、タイムリーに学びを可視化するなど教授方略を工夫した科目もあった。生成 AI を活用する学生も増えており、生成 AI 活用ガイドラインに沿って適切に活用できるように支援していく必要がある。 ・学力の個人差が拡大しており、自ら学びを深めていくことが難しい、これまで学習したことを活用できない、思考することが苦手といった傾向にある。定期試験では授業資料を暗記するだけで理解まで至らず、学習が積み上がっていない学生もいる。自ら調べ、他者に聞いて理解できた体験を増やすなど授業方略の検討を重ねていく。 ・各看護学でシミュレーションを強化しているが、領域間での共有が十分でないため、各領域でどのような内容を実施しているのか共有し、学びの集大成となる看護の統合演習につなげていく。またシミュレーション教育に不慣れな教員もおり、教員のファシリテーション力の向上も課題である。 ・講義及び実習は、授業評価の回収率が前年度より低下している。記名式にしたことも影響しているが、回収率を上げ、評価の妥当性を高められようとしていく。 <p>② 臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も実習が不合格となった学生がおり、実習目標の到達が難しい状況や、体調が整わないことによる時間数不足などが要因であった。学生の指導に苦慮している状況が続いており、教員間の連携を強化し各実習の目標に応じた支援ができるよう、次年度から同施設に複数教員を配置するよう調整している。さらに病院から地域の生活に戻る継続的な支援が学べるよう、臨地実習進捗を再検討していく予定である。 ・今年度から実習記録を手書きからデジタル入力も可能とした。記録時間の短縮となった一方で、実習施設では入力しない、決められた場所以外で保存しないなどのルールが守れないヒヤリ・ハット事例があった。情報リテラシーの強化と共にデジタル入力のルールを遵守できるように支援する。 <p>③ ユニフィケーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習での新任教員のサポートや統合分野の教材化に効果的であった。また今年度は施設の看護師にも授業に参加してもらい、学生の学習状況の理解につながった。次年度は新規施設でのスムーズなユニフィケーション活動の導入を図っていく。 <p>④ カリキュラム評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育理念であるヒューマン・ケアリングについて実習での体験と関連させ学ぶことができている。しかし強化したコミュニケーション能力や臨床判断の基礎的能力の育成については引き続き課題である。また講義や臨地実習で多職種連携について学びを得ているが、それを看護実践に活かせるように支援が必要である。新カリキュラムの評価でも主体的に学ぶ学生を育てるために、学生との関わり方や授業方略の更なる工夫が必要であることがわかった。
2	学校運営	<p><組織運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・自己評価（12 月実施） ・学生に実施している授業評価を記名式に変更 <p><リスクマネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント研修（年 1 回開催） <p><教育実践力推進のための研修等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会（発表 3 題・参加 11 件） ・研修参加 96 件（長期研修 3 件含む） ・教職員向け Google ワークスペース学習会 4 回/年 ・実習リフレクション「主体的に学ぶ姿勢を育むための学生への関わりを振り返る」（3 月） ・教員研修「専任教員として、どのように学生と関わっていかなければならないか」（3 月） <p><働き方改革の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク（昨年比 57%増）、拡大時差出勤の件数増（昨年比 55%増） ・時間外勤務減（昨年比 20%減） ・年次休暇取得平均 11 日/年（目標値達成） <p><コスト管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物品管理 ・学生数の変更に伴うリース品、学習教材の見直し 	<p>教員一人ひとりが学校経営に参画する意識が高められるよう、アクションプランで一元管理のもと、班体制による運営を行うことで報告・連絡・相談ルートを明確化した。朝、タミーティングを実施することで情報共有、業務調整などにつなげた結果、新任教員支援や勤怠管理につなげることができた。次年度は次世代を担う人材育成に力を入れて取り組みたい。</p> <p><教育力向上に向けた取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学力低下、看護師という職業に就くという意識をもって入学してくる学生の減少、コミュニケーション能力の低下から自分の考えを周囲に伝えることができない学生の対応など課題は大きい。教員の教育実践力の向上に向け教員の学会発表や研修会参加件数は増えている。教育の質の向上を図ることで成人学習者として主体的に学ぶ学生の育成に活かせるように教員の自己研鑽については推進していく。 ・本校における教育の充実・改善を図ることを目的に、本校が掲げるディプロマポリシーに基づいた能力の到達度について就職先の視点から評価をいただく卒業後アンケートを作成・検討し、プレテストまで実施した。その結果、卒業生は人間性や倫理観に基づいた看護を丁寧に実践できている一方、チーム内での主体性や臨床判断の質保証、自己開示といった点に課題があることが分かった。次年度は各施設に配布、実施までを行っていく。 ・教員経験が長くなることで、教員の看護実践能力が課題となっている。今年度は臨地実習場面の教材化を行い、効果的な学生指導につなげられるよう教員研修を企画した。主体的に学ぶことができる学生を育てるための関わりについて教員で共通理解し、同じ方向で教育活動が行えることを目指す。 <p><ICT を活用した学習環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用クラウドの活用が進み、学習プロセスの可視化、学習環境向上につながった。一方で学生の情報モラルの課題は大きい。AI やデジタル技術を活用した教育活動を推進していくとともに、生成 AI 利用ガイドラインを理解したうえで安全な情報管理ができる学生を育成する。そのために具体的な事例を入れたオリエンテーションを行い、情報リテラシーに基づいて行動できる人材育成を図ることが急務である。 <p><教員の働き方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の出席・成績管理、学生支援（面談）等は、時間を要している現状がある。学生への面談は教育的効果や心理的安全性を考慮したうえで、時間管理し実施する。 ・働き方推進でテレワーク、拡大時差出勤を活用することで時間外勤務の削減が図れたことは勤怠管理を意識して取り組んだ成果である。今後、タイムマネジメントをより意識し、教員は教育に専念できる時間を確保することは今後も課題である。

		今年度の取り組み（実績）	評価（成果・課題）								
3	学生支援	<p><国家試験対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策セミナー、国家試験対策ガイダンス ・必修模試：2回/年 ・全国模試：6回/年 ・夏季講座：2日間、冬季講座：3日間 ・メンタルトレーニング：1月実施 ・領域別強化講座：8領域 1月実施 <p><心身ともに健全な学生の育成のための支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮の申請開始 ・定期的なカウンセリング ・実習中のタイムリーな面談、家族同席の面談等 ・3学年全体のカウンセリング利用率：9% 相談内容：学校生活 90% その他 10% ・特別講義：1/8 実施（低学年対象のメンタルヘルスについて） <p><多様化する学生の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価を記名式へ変更 ・白衣はユニセックスを3種類採用 	<p>学生が主体的に学ぶための支援や心身ともに健全な学生の育成を目指した。学生によっては体調が整わず欠席する、学習習慣が身につかない等の傾向があるため、自らが自分の状況を認識し自己決定しながら行動できるような支援をしていく必要がある。</p> <p><主体的に学べるようにするための学生支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向けた学習支援 1・2年次より学習習慣が身につくよう支援している。学生自らが学習会を企画・運営しているが、3年次の模擬試験の成績に効果があらわれにくい。年度毎の学生の状況を踏まえ、次年度のセミナーや模擬試験についても見直している。 <p><心身ともに健全な学生の育成のための支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮、メンタルヘルス対策 合理的配慮の提供は、今年度は規程を定めた上で対応の流れに沿って稼働を始めた。規定に基づき担任を中心に保護者との面談を繰り返し行い、実習においても施設と協働し方向性を確認しながら支援した。現段階では合理的配慮の申請をした学生は少ないが、今後も学内での協力体制のみならず施設との連携の強化は必要であるとする。 ・カウンセリングの活用 実習や講義に万全な状況で臨めるように、より活用しやすいカウンセリングの時間帯を検討し実施している。実習に対してストレス反応があらわれる学生もあり、教員は学生に心理的安全性を保ちながら面接を繰り返し家族の支援を受けながら自己の課題に向き合えるよう対応した。今後も自分の状況を認識し、実習に臨める支援が必要である。また、合理的配慮だけではなく、様々な背景がある学生が増え教員も学生支援に困難を感じる場面が増えている。このため、教員が学生の支援の方向性を相談することで、学生支援に活かすことにもつながっている。 <p><多様化する学生の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価を記名式に変更したことで、看護学生として自己の言葉に責任をもち、実習の振り返りにつながるよう支援を継続する。 ・次年度から自分の好みで選定できるようにしたので、次年度学生の反応を踏まえ評価につなげていく。 								
4	入学生確保	<p><広報活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス：4回（参加者昨年度比 41.1%増加） ・ホームページ投稿：4回 ・SNS 投稿：38回（プロフィール移行率 20%） ・メディア出演：2回（テレビ・ラジオ各1回） ・大学広報：2回、個別学校案内：7件 ・高校ガイダンス 21校 ・職業ガイダンス：2回（高校1年生・中学1年生各1回） ・進路指導担当教諭対象の学校説明会：15校 ・専門実践教育訓練給付金制度 令和8年度より利用可能 <p><選抜試験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験者数：55%増 ※当日資料参照 ・自己推薦選抜：今年度導入 ・一般選抜の受験科目：現代国語1科目へ変更し外部委託（マークシート方式の導入） 	<p>選抜試験区分を増やし、一般選抜3回、社会人選抜・大学選抜各2回実施し、今年度から新規に自己推薦選抜を実施し受験機会を拡大した。広報活動ではSNSを活用し、本校の魅力を発信する内容で学生と検討して実施した。オープンキャンパスでは、学生主体の運営が受験生への親しみやすさとして参加者に伝わり、参加者および受験者数増加に繋がった。</p> <p><主体的に学べる学生の確保対策強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化や大学志向により、学生数の確保及び定着が課題である。広報活動で当校を知ってもらい、足を運んでもらうためにSNSは有用である。Instagramから本校のホームページへ移行する割合が低い状況であることがわかった。学生と一緒にホームページへのアクセスが増える発信方法の工夫を行い、本校の魅力をアピールしていく。 ・オープンキャンパスは、学生が進行・体験授業・個別相談等、主体的に運営に関わり、丁寧にアプローチを行ったことで受験生の増加につながったものとする。 ・中学・高校の低学年に職業ガイダンスを行うことで、看護師の職業概要がわかり今後の進路選択に役立ったとの感想が多かった。同敷地内の県立高等学校との連携や、近隣の中学校へもオープンキャンパスの案内を行い、本校への興味・関心につなげていく。 ・学校説明会参加校15校のうち13校が指定校推薦選抜・自己推薦選抜で受験しており、指定校推薦選抜や一般選抜で入学している学生の高等学校を中心に電話や対面等の学校訪問を実施し、アナウンスを強化していく。 								
5	社会貢献・地域貢献	<p><ボランティア活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数：学生数延べ40名、教員2名 <table border="1"> <thead> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第31回福祉祭り</td> <td>ビッグレスキューかながわ</td> </tr> <tr> <td>アレルギー児サマーキャンプ</td> <td>第27回神奈川看護学会</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ともいきシネマ</td> </tr> </tbody> </table> <p><学校祭の共催ブース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ともいき、ポッチャ <p><講師派遣></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員・教育担当者養成課程、実習指導者養成講習会等への講師派遣数：延べ5名 <p><地域貢献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二俣川地区県機関情報交換会1回/年（災害備蓄等） 	前期	後期	第31回福祉祭り	ビッグレスキューかながわ	アレルギー児サマーキャンプ	第27回神奈川看護学会		ともいきシネマ	<p>ボランティア活動や授業、地域交流をとおして、重要取り組み方針のスローガンである「地域社会や医療施設から選ばれる看護学校になるため」の主体的な学生を育てるためのボランティア活動、共生を大切にできる学生を育てるための社会貢献・地域貢献活動を行うことができた。</p> <p><主体的な学生を育てるためのボランティア活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から「ボランティア活動支援制度要綱」規定のもと奉仕の精神の育成に努め、前期2回、後期3回と県立の養成校として積極的に活動することができ、実習校や地域との関係の中でボランティア活動が浸透してきた。今年度はビッグレスキューかながわに学生と教員で参加し、災害看護を学んでいる2年生が実際の訓練でDMATの救急対応場面を目の前で見ることにより災害時の救護活動について学びを深めることができた。ボランティアに参加する学生に偏りがあるため、参加した学生から経験談を伝えてもらう機会を設けるなど、学生全体に広がるよう支援する。 <p><共生を大切にできる学生を育てるための社会貢献・地域貢献活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校祭や授業では、老人クラブ連合会等との連携により地域交流を深め、障害のある方とかかわる機会となった。その活動が社会福祉協議会の広報誌に掲載され、地域に根ざしながら学生の学ぶ場を広げ、障害のある方とともに地域で生活することを実感する機会や、高齢者とかかわりが減っている学生にとって対象を捉える視点を広げる機会となっていると考える。また、障害のある方や高齢者にとっても学生と関わる機会となり、学校祭や授業が互いに役立つきっかけとなり、相互性のある社会貢献・地域貢献の実現につながっている。
前期	後期										
第31回福祉祭り	ビッグレスキューかながわ										
アレルギー児サマーキャンプ	第27回神奈川看護学会										
	ともいきシネマ										